

大会4回
報告No.2

8/13決戦勝利。日鉄35万人体制粉碎。闘争方針を確立

日刊
動労千葉

80.11.29

No.594

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・八）（公衆）四三三二（七二〇）七

動労千葉第四回定期大会第二日目は、来賓に千葉県労連・清水事務局長、社会党・小川国彦衆議院議員、三里塚芝山連合反対同盟・石井実行役員、熱田副行動隊長を迎え、「一九八〇年運動方針（案）」をめぐって活発な討論が展開された。第三日目は、「予算（案）」及び規約一部改正を中心として議論された。発言にわたったの代議員もこの一年間、心を一つにして当局・動労「本部」反動分子の組織破壊攻撃を粉碎し、闘いを担い切ってきた自信と確信にみち溢れたものであった。そして大会は、会場を圧する拍手の中「八一・三決戦勝利を当面する最大の軸として、国鉄三十五万人体制粉碎―動労大改革」へ撃って出る確固たる基本路線と闘争体制を確立したのである。

また、今大会へは、銚子支部の戦闘的再建・結集にむけ力強く闘いぬいている銚子支部の多くの仲間が傍聴参加し、代表から力強い決意表明もなされ、全員の熱烈な激励・連帯の拍手をうけた。

提起された運動の基調

(一) 激動する世界情勢、それに規定された日本帝国主義の危機を延命すべく反動鈴木内閣は、戦後の支配のあり方を一変させるすさまじい反動攻撃をかけてきている。それは八一年―八三年を射程に入れた改憲、軍事大国化、朝鮮―アジア侵略への道であり、その過程で戦闘的労働運動を解体し労働運動の帝国主義的再編を狙ったものである。こうした戦後を画する反動鈴木内閣の超反動攻撃に対する唯一の対決軸・突破口こそ八一年三里塚二期着工阻止闘争である。したがってわれわれの闘いの戦略路線である「反合・三里塚ジェット闘争を水路にした八〇年代に通用する自前の労働運動」をより定着化させるものとして全組合員の飛躍をかけて闘う。

(二) こんにちはの階級情勢の中で八一・三は好むと好まざるとにかかわらず決戦状況になる。八一・三ジェット燃料暫定貨車輸送延長阻止闘争の決定的意義を真向から受けとめ、動労千葉結成の真価をかけ、必勝の陣型を整え、組織の総力をあげて闘い抜く。

(三) 国鉄当局の武装親衛隊・合理

化の尖兵「本部」革マル反動分子との対決なしに、動労千葉はもとより国鉄労働運動の戦闘的強化はありえない。銚子支部の早期結成―千葉「地本再建」策動粉碎―動労大改革・動労総連合にむけて更に闘いをおし進める。

(四) 国鉄三十五万人体制粉碎の闘いを、八一・三闘争と固く結合し、乗務員運用合理化―検修民託―木原線廃止反対闘争を軸に、船橋事故闘争以来の反合・運転保安闘争

『ジェット延長を事実阻止する特別決議』を満場一致採択ノ

成田・佐倉等代議員より提案

提起された運動方針をめぐって八一・三闘争、乗務員運用合理化問題、「本部」反動分子との組織争闘戦、高年令者対策、等々、多岐にわたる討論が行われた上で、「八〇年運動方針」これを支える「財政方針」が満場一致採択された。とりわけ八一・三決戦必勝の決意にもえたつ熱烈な発言の上に、「……われわれは本大会の名において八一・三ジェット燃料貨車輸送延長に断固反対する意志をきっぱりと明らかにすると共に、組織の命運をかけ三里塚闘争の勝利と八〇年代労働運動の戦闘的転換



81・3ジェット決戦勝利へ！
動労千葉二一〇は断固として前進する。

あいさつに立つ空港反対同盟石橋委員長代行（右・日目）